



金澤北ロータリークラブ



ROTARY CLUB OF KANAZAWA-NORTH

卓話「教育シリーズ」を振り返って

企画委員長 的 場 晴 次



この1年間企画委員長として「教育」をテーマとした企画を組み、様々な角度から講師の皆様にお話しをしていただきました。

教育の問題を取り上げましたのも、現在の日本の中で発生している様々な問題の根源に教育の問題があるのではないかと考えたからです。

教育問題を単純ににくくりにはできませんが、講師の皆様の話しを聞きながらそこに共通する問題点があることに気がつきました。

一つは子供の能力の問題、二つは親の問題、三つ目は教師の問題であったと思います。子供の能力の問題につきましては子供には能力差があり、その能力に応じた教育を行えば解決する問題であり、その具体的事例として金沢錦丘高校が取り組んでいる中高一貫教育である事を村井加代子金沢錦丘高校校長が話されていた通りだと思います。

二つ目の親の問題が一番大きな問題としてクローズアップされていたと思いますが、この問題は後で述べさせてもらいます。三番目の教師の問題ですが、これも山岸県教育長が話しをされました通り、教師不適格者として再教育を行い徐々に是正されつつあること、中川賢司鶴来高校教師が話しされました通り教師を大学院へ派遣して能力の向上を図る制度があり、教員の問題もその改善に向けた様々な努力がなされています。

最大の問題は講師の多くの方が指摘されました通り、親の問題でありこの問題をどう解決す

るかがこれからの最大の懸案ではないかと思えます。石原多賀子金沢市教育長、駒谷良雲金沢高校理事長が話しをされましたように、親の社会的常識の欠如、道徳観・倫理観の欠如、子供に対する過度な甘やかし、親自身の責任感の欠如、教師・校長・教育委員会に対する一方的な責任追及、子供の個性と我儘、自由と放任を区別できない親の認識不足等数え上げれば限りがないほどの具体的な事例の紹介がありました。

このような社会常識に欠け、倫理・道徳観を持たない親をどう再教育するかが大きな課題だと思います。「子供を教育する前に親を教育することが先決である」とよく言われますが「言うは易し行うは難し」でどのように親を教育し導くのかは子供の教育よりもはるかに難しい問題であると思います。

今、企業においても企業倫理の問題・法令遵守の問題が問われていますが、教育における親の問題も正に同様の問題であり、多くの識者は日本における社会常識の欠落、倫理観の低下、宗教観の退廃等が原因であると指摘をしています。過去に「政治家に道徳を求めることは八百屋で魚を求めるようなものである」と発言をして国民から輦蹙を買った政治家もいましたが、政治家の汚職等の政界の浄化には政治資金規制法等の罰則の強化で対応しそれなりの成果を上げたように、現在の社会を構成している大人である親にも「馬鹿親規制法」でも作り、罰則強化で対処する方法しかないのかなと思います。

最後は馬鹿な落ちとなりましたが、この一年間の会員の皆様、講師の皆様のご協力に感謝申し上げます。本当に有難うございました。

「私の考えるロータリー」(3)

—— 国際奉仕と社会奉仕を中心に ——

ロータリーでは、その奉仕の理想を実践に移すため、四つの部門に大別している。それは既にご存知の通り、国際奉仕、社会奉仕、職業奉仕、クラブ奉仕である。その内クラブ奉仕にはいくつかの委員会を設けて、それぞれ分担している。また国際奉仕にはロータリー財団を包含すべきであり、金沢北RCにはまだ設けてはないが、都市安全即ち交通と公害、それに青少年問題を含めて社会奉仕に組み入れる筋合いのものであろう。

ところで、この四大奉仕は、いづれにも軽重、甲乙のあるべきものではないが、ロータリーが創始された当初には、おそらくクラブ奉仕と職業奉仕が主体であったと想像される。ロータリーが次第に活動範囲を拡大するに及んで、国際と社会が自然、発展的に加えられるに至ったように考えられる。

しかし、今日においては、ロータリーの目玉は職業奉仕であり、ライオンズのそれは社会奉仕と特色が明かになって来た。この相違点に大きな注目と認識がなされねばならない。ロータリーの四つの部門に軽重を論ずるべきものではないことは前述の通りであるが、私はこの四つの関連を次のように判断し、表現したいと考えるのである。

即ち、職業奉仕はロータリーの根であり幹である。そして、社会奉仕と国際奉仕はその枝であり葉である。更に、クラブ奉仕はそれらの土壌である。立派な土の中にすばらしき根がはり、幹が生まれ、それを根幹として自然に枝が伸び、葉もしげることになる。従って、せんじ詰めれば、内容充実のすぐれたクラブとは、このような姿である。この論法、クラブは土壌、職業は根幹、国際と社会を枝葉とする(枝葉末節と違う)見解論は私独

自の創案であるが……。

以上を前提に、国際奉仕と社会奉仕について考えを進めたいと思う。ロータリーの綱領にもある如く、「奉仕の理想に結ばれた実業人と専門職業人の、世界的親交によって国際間の理解と親善と平和を推進すること」と宣言されているように、国際奉仕は国際親善と理解であり、それにはいろいろ手段もあろう。いま私どもにはアラブとイスラエルの紛争の中に割って入る立場でもないのに、海外旅行や外人が来日したとき、誠実に友好的に接触することであり、対外輸出入にたずさわるときも同様であろう。エコノミックアニマルと蔑称される行動、旅の恥はかき捨てる的乱行は、国際奉仕を冒瀆するものである。

この他、最もたやすく国際奉仕を実践出来るのは、ロータリー財団(米山財団を含めて)への協力であるが、その詳細は改めての機会に述べたい。

社会奉仕については、ロータリーには職業を通じての路線もあるが、一般的には、今の社会悪に挑戦し、地域社会に貢献されねばならないことは常識である。青少年と公害、加えてエネルギーとインフレの問題など、ロータリアンの取組まねばならぬ事象は数多く押し寄せている。正当なる利益を挙げて税の負担力を増大させるのも重大なる社会奉仕の一つであろう。

また、金銭の寄金だけが社会奉仕ではない。ロータリーは、むしろ金銭よりも心の社会奉仕を期待しているのである。交通遺児、身よりのない孤独の老人などに対して、国や県市の手の及ばない心の奉仕をロータリーが受け持つのも一策ではなからうか。

「私の考えるロータリー」(4)

—— 職業奉仕について ——

ロータリーの理想を完遂せんとするクラブ機構についての締めくくりとして“職業奉仕”に関し以下考えて見たい。

“職業奉仕”はロータリーの根幹であり、“社会奉仕”と“国際奉仕”はその枝であり葉であり而して“クラブ奉仕”は、これらをたくましく育てる土壌である。と、私は見立てる。殊に“職業奉仕”はロータリーの中核をなすもので、ライオンズなどと大きく異なる特色である。

従って、職業に対処するロータリーの理想実践、倫理の探求、職業の浄化こそ、ロータリー最大の悲願であらねばならない。ところが、日本のロータリーはスタンドプレーと、浮身をやつすに終始している感さえあって、外観は豪華であるが、内容は貧しく空虚で、ロータリーの本質、根幹が忘れられんとしている。ロータリーの混迷と、悲劇はここに始まるのである。

が、しかし、ロータリーが訓える職業倫理の追求と、自我との闘いは苦しく厳しく、言うは易く行うは……であるが、ここにこそ、ロータリーの存在意義があり、乱世、狂乱の今、特にロータリー活動の積極的推進、展開が要請される場所である。

今や自然も社会も、あらゆる形で破壊されつつあり、公害は口害と共に次第に深刻である。外にはエコノミックアニマルと蔑称され、内には飽くなき買占め売惜しみ、便上値上げと、手段を選ばぬ利潤追及が横行し、社会秩序は攪乱されている。今こそ、すべての職業人の自省自戒が見直されねばならない。思うにまかせた不当なる利益をむさぼり、たとえ、その一部が社会に還元されたとしても、断じて許されることではない。ロータリアンの使命の、今ほど重大な時はない。今こそロータリーの理想を顕現し、“職業奉仕”の意義が再確

認されねばならないと痛感する。

いづれのロータリークラブでも、“職業奉仕”はむずかしい、というのが定説であり、“職業奉仕”の本質に取り組みしないで、従業員表彰や、いわゆる“四つのテスト”の印刷物の頒布などでお茶をにごしている。もちろん“四つのテスト”を否定するものではない。むしろ“四つのテスト”にこそロータリーのすべてがあるとさえ断じてよいのであるが、これが口頭禪に終り、マンネリー化し、対処する姿勢に問題がある。

ロータリアンの処世の言動、職業の浄化は、“四つのテスト”に始まり、これが終着であらねばならない。と、私は確信する。“四つのテスト”は、元RI会長ハーバート・テイラー氏が提唱した不滅の名言であり、ロータリアンの信条とすべきであるが、その日本語訳に問題があって、日本のロータリーになじめないうらみもあり、近年いろいろ改訂が論ぜられている。おこがましい次第であるが、私は日本語版の新しい試案を得て、いささか自負しているのは次の通りである。

- ◇うそ、偽り、無理はないか。
- ◇正々堂々筋が通っているか。
- ◇善意と友情に徹しているか。
- ◇世のため人のためになるか。

私は、これを自らに言い聞かせつつ、これに取り組むことに自らの救いを求めているのは、“積善の家に余慶あり”“因果応報”などの心のささえである。

当クラブ創立当時、新会員の研修のため、クラブ会報に「私の考えるロータリー」を15回に亘って連載されました。その一部を再び紹介致します。

大村 精二

会報委員会より

委員長 二塚 長 生

美しい銅鑼の表紙で進めた会報誌も2004年7月1日号から始まり、2005年6月30日号の最後の任期まで発行することになり完全試合で終えることとなりました。

最初、基本方針に掲げました歴代会長掲載記事が最大の事業で少なからず心配致しましたが、お陰様で歴代会長会員には心よく寄稿いただき順次うまく載せていくことができました。この

場を借りて厚く御礼申し上げます。途中残念にも亡くなりました、故 中谷栄治、故 中村三次会員には心より御冥福おいのり申し上げます。

又、色々と記事の原稿・写真等のお世話をいただきました委員長各位にも感謝申し上げます。

1年間の会報誌をまとめてみますと実りある修練用の生き字引になったのでは、と自負致しておる次第です。ありがとうございました。



第1541回例会

6月16日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

金沢高等学校 理事長 駒谷良雲氏
「よもやまさかの濁悪世」

2. 出欠

出席 40名 欠席 28名 出席率 58.82%
ビジター 3名

3. 来訪者(敬称略)

富山西RC 竹上譲二
金沢東RC 高羽国広
金沢西RC 駒谷良雲

ニコニコボックス

金沢西RC 駒谷良雲君

今回でシリーズ最後のお話をさせていただきます。

上田君 ご講話いただいた、駒谷理事長さんに深く感謝して。

濱井君 駒谷良雲先生、今年度最後の講話、宜しくお願
い致します。この一年大変お世話になりました。
心から感謝申し上げます。

的場君 駒谷理事長、一年間に渡り、講話を有難うござ
いました。

中村(芳)君 長女が6月4日に結婚いたしました。お祝
いを頂き、有難うございます。

佐賀君 先日(本州四国架橋の一本である)しまなみ海道
100キロウルトラマラソンに出場しました。14
時間余りと予定を一時間余計かかりましたが、
かろうじて完走しました。ロータリー会員とし
て誇りに思います。

合計 30,000円(累計 1,377,000円)

第1542回例会

6月23日(木) 晴れ 12:30~13:30 松魚亭

1. 講話

公証人 東 巖氏 「遺言について」

2. 出欠

出席 38名 欠席 30名 出席率 55.88%
ビジター 7名

3. 来訪者(敬称略)

小松東RC 山腰 茂
金沢RC 横山英勝
金沢西RC 若林昌憲 戸水義雄
香林坊RC 西 三也 新谷寿久
みなとRC 森下保子

ニコニコボックス

上田君 本日の講師、東先生のお話に期待して。

高島君 講師に東巖様をお迎えして。

濱井君 講師に東巖氏をお迎えして。本年度も後最終夜
間例会を残すのみになりました。大勢の会員の
皆様の参加をお待ちしています。

木村(丹)君 誕生祝を頂きまして。

吉井君 インドでのプロジェクトが進捗し、起工式を済
ませました。

合計 14,000円(累計 1,391,000円)

6月クラブ日誌

9日(木) 新旧理事会

松魚亭にて

30日(木) 最終夜間例会

松魚亭にて



会 長: 上田 忠信 S A A: 汐井 俊彦
会長エレクト: 高島 菊丸 会 計: 木村 功一
副 会 長: 米沢 真二 広報委員長: 二塚 長生
幹 事: 濱井 弘利 会 員 数: 69名
副 幹 事: 勝田 浩之 クラブ設立: 昭和48年10月3日

例 会 日: 木曜日 12:30~13:30
例 会 場: 松魚亭 金沢市東山1-38-30
TEL<076>252-2271 FAX252-2273
事 務 局: 金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所内
TEL<076>222-2525 FAX224-2882
E-mail:k-kitarc@aqua.hokuriku.ne.jp